

指導資料

外国語(英語)第79号



鹿児島県総合教育センター
平成27年10月発行

対象
校種

幼稚園 小学校 中学校

高等学校

特別支援学校

読解における多様な指導の在り方 — 内容理解の視点から —

英文読解の指導においては、話の概要や要点を捉えさせること、テキストの詳細を理解させたり筆者の意見と自分の考えを比較させたりすることなど、様々な目的が考えられる。そこで、読解における多様な指導を目指し、目的に沿った効果的な発問や指導法、読解に関わる活動例について具体的に紹介する。

1 読解指導と学習指導要領とのつながり

「学習指導要領解説外国語編・英語編」では、「読むことを中心とした活動」について次のように明記されている。

【コミュニケーション英語Ⅰ】

説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。

読んだ内容について、賛成や反対などの意見を述べたり、簡単な感想を述べたりするような活動も併せて行うことが大切である。そうすることで、読む活動の意義を意識させ、概要や要点をとらえることの大切さを理解させることが可能となる。

読んだ内容を基に、意見や感想などを発信するような技能統合型の指導の必要性についても言及されている。

【コミュニケーション英語Ⅱ】

説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。

「目的に応じた読み方をする」とは、英文を読むときに、生徒自身が何のために読むのかをあらかじめ明らかにし、それに応じた読み方として速読や精読などの読み方を選択する必要があることを示している。目的の具体例としては、概要や要点を把握する、必要な情報を探す、詳細を理解する、文章を解釈するなどがある。

どの題材も同じような読解指導に終始するのではなく、教師が何のために読むのかを明確にし、発問や活動を工夫しながら、目的に応じた読み方を指導する必要がある。

2 「内容理解」の捉え

読解指導においては、「内容理解」をどのように捉えるか、指導者が明確に把握する必要がある。「内容理解」とは、単に教科書の英文を和訳させることでもなければ、書かれている情報に関して、順番どおりに Yes/No (T/F) questions をして、生徒の理解を確かめることでもない。

「内容理解」において大切なことは、話の概要や要点を理解させたり、段落と段落の関係性に着目させながら英文構成を考えさせたりすることである。指導の際は、詳細な部分に焦点を当て過ぎることがないように留意すべきである。なぜなら、生徒の思考が詳細な情報の解釈のみに偏り、英文全体の概要や要点、段落構成にまで及ばなくなる可能性があるからである。題材によっては（物語やエッセイなど）、英文を詳細に解釈させながら、登場人物や筆者の心情面を考えさせることも必要である。その際、書かれている事実を基に類推させることによって、生徒の理解をより一層深め、思考を活性化させることができる。

読解指導においては、教師が読む題材に応じて概要や要点を把握させるのか、詳細を理解させるのかといった適切な目的を設定し、その目的に沿った「的確な内容理解」の在り方を考える必要がある。「内容理解」の程度は、「生徒にどのような目的をもって題材を読ませ、何を理解させたいのか」という指導目標によって決まるのである。

3 概要把握を目的とした読解指導例

次の英文を基に、概要把握を目的とした読解指導の在り方について、発問例や活動例を中心に以下に示す。

【Part 1】

Like little turtles, kids shuffle their way to school every day wearing giant backpacks. Even high school students have to bend forward to lug their heavy books and binders to and from school. It's frustrating and looks a little silly, but is it dangerous?

Yes, say many experts. "Kids are saying 'My back hurts, my neck and my shoulders hurt,'" says Dr. Karen, a clinical professor. "A heavy backpack can also contribute to headaches and problems concentrating at school."

Karen is also a spokesperson for the American Occupational Therapy Association. She says crowded schools and less locker space may be making backpacks bigger. "Since at least 1998, we've noticed backpacks getting bigger and heavier, and not in proportion to the kids' sizes," Karen says.

【Part 2】

A 2010 study concluded, "Backpack loads are responsible for a significant amount of back pain in children." The same study says a third of kids ages 11 to 14 report back pain. Other research from 2011 came to a similar conclusion.

【教師による発問例】

Now, I want you to read the 1st and 2nd paragraph of Part 1. Before you read, I give you two questions.

- 1 According to this passage, what is dangerous?
- 2 Why can we say it is dangerous?

生徒に英文を読ませる際に、あらかじめ読解の視点を質問として示すことで、生徒は何のために読むのかを認識できる。また、概要把握をさせる観点から速読を意識させるために、"I give you one minute to finish reading."という指示を与えるなど、時間を設定して読ませることも大切なことである。

【教師と生徒のやりとり】

T: Have you finished? OK. Tell me the answer of my first question.

S1: Giant backpacks.

T: That's right. You see the phrase 'wearing giant backpacks' in the 1st paragraph. Then how about question No.2? Why is wearing giant backpacks dangerous?

S2: Because kids say, "My back hurts, my neck and my shoulders hurt."

T: Exactly. Can you find another reason?

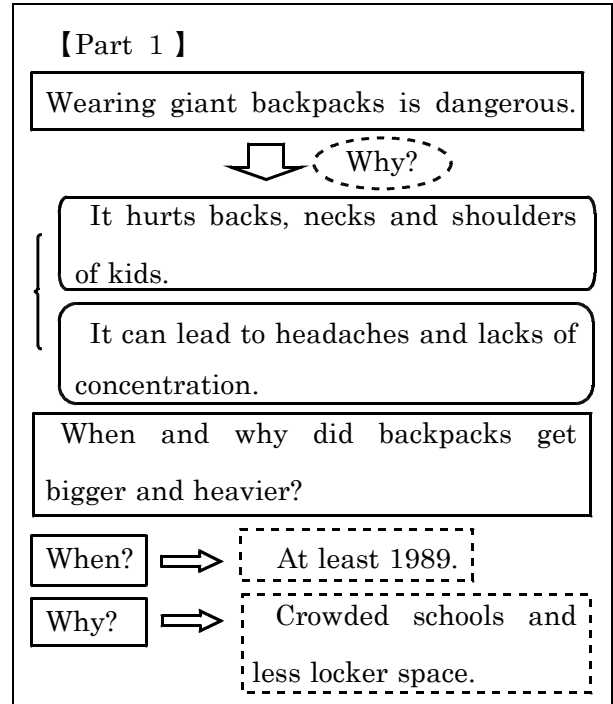
S3: An expert says, "A heavy backpack can contribute to headaches and problem concentrating at school."

T: Excellent!

(T: 教師 S: 生徒)

第3段落についても、同じ流れで質問し、生徒とやりとりをしながら内容確認を進めていく。生徒とのやりとりをしながら、次のように本文の内容を整理して示す。

【板書例】



発問については、生徒から出された解答を整理すると、本文の概要になるように工夫することが大切である。また、板書等を通して本文の内容を視覚化することも内容理解に大いに役立つ。

概要把握ができれば、Part間の関係性に着目させることが大切である。Part 2には具体的な数値や調査結果が述べられているが、これらの情報はPart 1に述べられていた、"Wearing giant backpacks is dangerous."ということをより裏付ける、具体的な情報であるということに気付かせ、Partごとの概要把握のみにとどまらないように心掛けたい。

概要把握を目的とする場合、どの情報が大切なのかを的確に把握し、段落間や

Part 間の関係性に着目させる発問や働き掛けを考えて、指導をしたい。

4 文章を解釈することを目的とした読解指導例

次の英文を基に、文章を解釈することを目的とした読解指導の在り方について、発問例を中心に以下に示す。

【英文】

It was a cold night, and he put his coat over her shoulders. They were on their way to a restaurant. The dinner was nice, and he paid for both of them.

After the dinner, they walked along the river. Suddenly, he stopped to give something to her, saying, "Will you marry me?" He had bought a ring for her. She was very surprised but looked happy.

英文に出てきた情報を基に事実を確認する発問だけでは、文章を解釈するという目的には到達しない。そこで、次のような発問をすると生徒が思考を活性化させ、文章を解釈しようとするのが期待できる。

【教師による発問例】

- 1 Can you guess what the man is like?
- 2 Did she expect she would get a ring?
- 3 Will she accept his proposal?

1の問いに対しては、"put his coat over her shoulders"や"paid for both of them"という男性の行動から、「優しい」とか「頼りがいがある」などといった答えが考えられる。2の問いに対しても、"She was very surprised"という記述から答えは想像でき

るであろう。題材には直接書かれていなくても、書いてある情報から行間を読ませたり、答えを類推することが可能な問い掛けをしたりすることで、様々な角度から文章を解釈させることができる。

また、3の問いによって、今後の話の展開を予測させることができ、より深い読解を促すことができる。読んだ内容を基に、自己表現をさせる機会の確保にも努めたい。

5 「読み方」を教えるという視点

読解指導においては、題材の内容や特性に応じて、概要や要点を把握するために有効な発問や文章の細部にまで生徒の思考を向けさせるために有効な発問を考えることが不可欠である。

発問は授業づくりの核である。あらゆる題材を、ただ左から右に読ませるような発問だけをしていては、生徒はどうやって題材を読み進めていけばよいのかを理解することはできない。題材を立体的・多角的に捉えさせる発問を考え、段落間やPart間のつながりなどにも目を向けさせ、英文構成や論の展開に着目していくような「読み方」を教えていきたい。

教材研究の際に、「読む目的」と「内容理解の在り方」を的確に把握し、多様な読解指導を心掛けていきたい。

—参考・引用文献—

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』平成22年5月、開隆堂
- 田中武夫・島田勝正・紺渡弘幸編著『推論発問を取り入れた英語リーディング指導』平成23年9月、三省堂

(教科教育研修課)